

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0493500029		
法人名	社会福祉法人 永楽会		
事業所名	グループホーム のどか	ユニット名	A棟
所在地	宮城県牡鹿郡女川町浦宿浜字浦宿81-4		
自己評価作成日	平成 25 年 12 月 13 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成26年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 中庭に畑があり、入居者様と一緒に季節に応じた野菜を育て収穫している。入居者様も成長を日々楽しまれて観察されている。 ・ 毎月のように各入居者様の誕生日を盛大にお祝いさせて頂き、喜びを分かち合える時間を共有できる場面づくりに力を入れている。 ・ 食事は献立を作成し、地域の商店街より食材を購入している。毎週刺身の日を設定し地域の食材を味わって頂けるように行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは何処も掃除と整理が行き届き清潔に保たれていて気持ちが良い。近くに同法人の特養があり一緒に秋刀魚祭り等行事を実施したり、緊急時の連絡や職員の交流がある。震災の影響で新人の職員も多い中、盆踊りの参加、元旦の獅子舞の来訪等地域の交流も多い。行政からの支援も厚く運営推進会議も例年通り実施している。また花見、紅葉の見学、入居者が以前利用していたお店、買い物兼ねたドライブに出掛け外食も楽しんでいる。そして何より職員、入居者の表情が明るく元気に笑顔で過ごしている様子が伝わってくる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム のどか)「ユニット名 A 棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常生活や、今までの暮らしが持続できるような理念を掲げている。「自分だったら」という事を常に想定し、穏やかで混乱のない暮らしがサポートできる様に実践している。	理念「人生の先輩の知恵・笑みのある暮らし・家族との絆・地域との交流」は事務所内に貼り職員が目を通し共有している。ケアの場でも入居者を自分に置き換え、笑顔で接し安心感につながる支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地的に工場地帯に囲まれていて、近所付き合いや日常的な交流はできていない環境にある。町内在住の職員が少ないということもあり、交流が出来ていない。交流を図れる場所づくりを検討している最中である。	同法人特養と合同で秋刀魚祭りを実施し、地域の業者、ボランティアの協力のもと、地域の方々、家族、入居者を含め多数参加した。地区の盆踊り、元旦の獅子舞、中学生の体験学習の受け入れ等意欲的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア研修、中学生の職場体験の受け入れを行い、施設での役割や認知症の方々への接し方・支援方法などを助言している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では活動の報告や意見交換会を行っている。ケア会議や職員会議の場で再確認を行っている。	年6回開催し、町の健康福祉課、地域包括支援センターの職員が毎回参加している。参加者より、震災後少なくなった職員補充の状況、転倒予防のための「ふまねっと」の導入活用等が話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	情報交換や入居者間の相談、施設のみで対応が難しい時の相談などを常に行い、連携を図っている。	担当課に事故報告の家族対応について相談し助言を頂いた。町主催の地域住民を対象とした「認知症家族介護」の講師として管理者が出席している。調査当日は町の健康福祉課の職員に同行を頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人ひとりの習慣や特徴を知り、可能な限り付き合うことを原則に玄関の施錠は夜間のみとしている。職員間で入居者の対応方法などを常に相談・検討し行なっている。	毎月リスク委員会でヒヤリハットの事例を挙げ職員全員で振り返り、身体拘束されることの弊害について共有し理解をしている。無断外出の方があり、同法人特養の職員より連絡があった。その後、町のSOSネットワークに登録し対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者には小さなことでも報告を行い、職員は他職員のシグナルを察し、お互いが助け合うことで負担を抱えないように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修や勉強会へ参加し勉強できる機会がある。また、後見人に話を聞く機会もあるがまだまだ職員の理解度は低い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実態調査時の不安や疑問は契約時に説明を行い、理解ができるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本部事務局にはお客様相談室を設けている。また、面会に来られた時には、ご家族様の要望や意見を聞き、要望に添えるように努めている。	行事や面会時、居室で家族に話しを聞いている。職員のシフトの変更や食べ物、衣類の買い替え等家族の要望にそれぞれ対応している。2ヶ月毎に行事の写真、新人職員紹介等「のどか瓦版」を発行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は必要に応じ、個別に話を聞き助言できる機会を設けている。また、理事長の個別面談もあり順次行っている。	第1金曜日の職員会議等で意見を聞いている。震災後多くなった新人職員への助言等話し合われている。またウッドデッキの改築、IHの交換等職員の意見が反映された。理事長が月2～3回来訪し意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は、資格に応じた手当を支給している。実務経験や実績を踏まえて資格取得への働きかけや研修への参加を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では学ぶ機会が多くあり、できる限り職員が参加できるようにしている。また、業務の中では個々の能力に応じ特異分野での業務に役割と責任が持てるように分担をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会がなく出来ていない。交流を持てるように、見学などを行ったり、連絡協議会へ参加を行いサービスの質を向上していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わることで、ご本人のストレスが最小限に抑えられるよう訴えなどを聞き、要望に添っていくこと。そして、ご家族の協力を得ながら信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは密に連絡を取り合い、施設に気軽に足を運んで頂けることで信頼関係を築く。暮らしや施設の理念を伝えることで安心して頂ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定のケアプランを立て、精神状態の把握を行い、施設に馴染み安心した暮らしが早期に実現できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立を促し、できる部分が沢山あることを自覚していただく。家族の一員として頼りにしていますという気持ちを常に表現している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は協力的で関係は良好である。通院や外出等、また施設内での行事にも参加していただくことで絆を断たないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	震災の影響で馴染みの場がなくなってしまった交流の機会が少なくなっているのが現状となっているが、商店街や美容室など地域へ足を運び、交流を図っている。	震災後出来たコンテナ商店街、「きぼうのかね商店街」に出掛け知り合いの方と談話する方、家族や遠方の孫に年賀状を出す方、行きつけの美容院に出掛ける方等関係が途切れないように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時の状況、その場の雰囲気を感じて職員は仲立ちとなり、トラブルにならないように配慮を行っている。性格的なものや日々の関係を考慮し、居場所なども工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援や相談に応じていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中や会話から、本人の要望や希望を把握している。	居室で不穏になっている時家族の心配事を聞いたり、震災地をドライブしたり安心を与える支援をしている。仲良し同士一緒に買い物に出掛け、居室でお茶を飲んだりお喋りをしたり楽しんでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族との歓談の中から、今までの暮らしや生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録への記載、申し送りノートの活用、健康チェックなどを行い状況把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしや、身体・精神状態の把握は毎日行っており、ケア会議・担当者会議・職員会議を行い、ケアプランの見直し、更新を行っている。	担当者が家族、本人からアセスメントし職員全体でカンファレンスし介護計画を作成している。3ヶ月毎に評価し、6ヶ月毎に見直している。家族から何か役割を持たせて欲しいとの要望で食事のお手伝い等反映させた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録への記載を行い、職員間で情報の共有をし、介護計画へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの支援は多様で、日によっても変化する。その場での解決や安心して生活していただけるような支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	震災を受け、地域資源が減少していたが、少しずつ復興しているものもある。改めて地域資源の把握と協働の体制作りを図ってきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内の病院を協力機関として、緊急時や定期受診でお世話になっている。また、ご本人の身体状況などをご家族と相談していきながら適切な医療を受けられるように努めている。	入居者の大半は協力病院の女川町地域医療センターを受診している。状況説明は口頭で伝え、結果は生活記録に残し職員で共有をしている。同法人特養の看護師が、バイタル測定や健康相談に応じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バックアップ施設の看護師が、月に1度の健康相談を行っている。施設内でできる範囲の助言をもらったり、判断が難しいときには協力をいただき健康維持に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設での自立状態を把握して頂き、退院に向けては、自立に向けての生活リハビリや機能訓練をしていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設には看護師の配置はなく、終末期について、ご家族はバックアップ施設への入所を希望している。今後の課題として、ご家族の要望をしっかりと聞き、施設での取り組みを検討していきたい。	入居時、重度化や終末期を迎えた場合は状況の変化に応じ繰り返し話し合い、事業所が出来る対応を家族に説明をし、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に応急手当や救命処置についての勉強会があり、ある程度の知識は身につけている。また、定期診察の際に医師より助言をいただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	震災の体験を基に、災害に対しての避難や備えについて検討を重ね、再度マニュアルの見直しを図っている。避難訓練も定期的の実施している。	消防署、設備業者、地域住民の協力を得て夜間想定を含め合同訓練を1回行い、独自で1回行っている。消防署より訓練は出来るだけ多く等アドバイスを受けた。震災後食料を多く補充をした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷つけないように、また周囲の誤解を招かないよう配慮し、丁寧な言葉遣いと穏やかな声掛けを心がけている。	人生の先輩として、声のトーンに気を付けその人に合った言葉掛けをし、笑顔で過ごして頂くように支援をしている。外出の時、自分で身だしなみを整えたり衣服を選んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時の状況、その場の雰囲気を見て職員は仲立ちとなり、トラブルにならないように配慮を行っている。性格的なものや日々の関係を考慮し、居場所なども工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にせず、まずは入居者様と一緒に過ごすという支援を最優先にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の髪型や服装の好みを尊重している。また、こまめに整容(散髪・髭剃り・爪切り等)の声掛けや支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の希望を取り入れたり、楽しみとなる食事作りを心がけている。また、調理や配膳など、その方のできることをして頂いている。	献立は同法人特養の栄養士が作成し、食材は地元の復興コンテナ商店街で仕入れたりホームの畑で作った野菜などを取り入れ調理をしている。正月、誕生会、敬老会の行事食は職員と一緒に作り楽しく食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は常に気を配っている。個人の状態を把握し確保に努めている。食事形態や嚥下状態も個々に把握し、完食できる量や形態での提供を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方は本人と相談し、ケア用品の補充などを行っている。毎食後の口腔ケアは自立の方についてはご本人へ任せている。起床、就寝時には口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排日の記録と申し送りにより排泄リズムを把握し、トイレ案内やシグナルを察知し、可能な限りトイレでの排泄ができるように支援を行っている。	9名の方は昼夜自立でトイレ排泄をしている。その他の方は定期的な声掛けや、椅子から立ち上がったリソソワしたり落ち着きがなくなる等サインを把握し一人ひとりの状態に合わせ支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日軽運動(自由参加)を行い、できる限り参加していただけるように働きかけたり、バランスの良い食事作りを心がけ予防と対策に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	要望のある方に対しては、できる限りその時間に提供できるようにしているが、職員の配置人数がギリギリの状況であるため要望どおりといかない時もある。曜日やなどで固定化し認知症の方でも把握のしやすい環境づくりをし、清潔保持に努めている。	熱め、温めの風呂等本人の希望に合わせて週2～3回の入浴支援をしている。仲間同士で入浴する方や職員とお話ししながら寛いで入浴を楽しんでいる方々もいる。現時点で入浴拒否者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの方の生活リズムを把握した上で、状況に合わせて昼寝や就寝時間の配慮を行っている。安眠や熟睡ができるよう日中の活動や生活リズムの見直しもしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出来れば薬(特に精神薬)は減らしたいというのが施設での考え方であり、その都度かかりつけの医師と相談を行いながら服薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを見つけて、やっていただくよう働きかけている。また、楽しみごとは出来る限り実現するよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添って、積極的に行っている。また、こちらからも様々な場所を提案し外出して頂けるように働きかけている。	天気のよい日はホームの周辺を散歩し近所の笹かま屋に立ち寄りお茶を飲んだり楽しんでいる。ドライブで日和山の花見、定義山の紅葉、バスで家族も一諸に上品の郷に出掛け帰りに買い物や外食を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事務所にて保管をしているが、お金の管理ができる方へは、買い物時などに現金の所持をしていただいたり、会計時にご自分でお支払いを行っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望に添い、電話や手紙等のやり取りは自由にいただいている。御家族様からの協力も頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の場所と認識ができるように席は固定化としている。ソファーなどやこたつなどを設置したり、植物などを置き、居心地のよい空間作りを行っている。	事業所内は何処も清潔で掃除が行き届き気持ちが良い、リビングも広く自然の陽光に満ち、神棚、正月飾りや獅子頭が飾られていた。入居者は温、湿度が適切に管理されている。リビングのソファーで安らぎテレビを見たり寛いでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやテーブル、テレビなどの配置を工夫している。それぞれの方が居心地のよい場所として過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでいただき、その方の好みや個性を尊重した居室になるよう、ご家族様にも協力を求めているが、理解をして頂くのは難しいこともある。	居室は広く、収納部も整理され家具、冷蔵庫、テレビを持ち込み、家族の写真や仏壇が置かれている。趣味の縫い物をする方もおり、居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に応じた備えができるように、担当職員は工夫をしている。できる事やわかる事を前提にドアの開放や照明などの使い方も工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0493500029		
法人名	社会福祉法人 永楽会		
事業所名	グループホーム のどか	ユニット名	B棟
所在地	宮城県牡鹿郡女川町浦宿浜字浦宿81-4		
自己評価作成日	平成 25 年 12 月 13 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成26年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 中庭に畑があり、入居者様と一緒に季節に応じた野菜を育て収穫している。入居者様も成長を日々楽しまれて観察されている。 ・ 毎月のように各入居者様の誕生日を盛大にお祝いさせて頂き、喜びを分かち合える時間を共有できる場面づくりに力を入れている。 ・ 食事は献立を作成し、地域の商店街より食材を購入している。毎週刺身の日を設定し地域の食材を味わって頂けるように行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは何処も掃除と整理が行き届き清潔に保たれていて気持ちが良い。近くに同法人の特養があり一緒に秋刀魚祭り等行事を実施したり、緊急時の連絡や職員の交流がある。震災の影響で新人の職員も多い中、盆踊りの参加、元旦の獅子舞の来訪等地域の交流も多い。行政からの支援も厚く運営推進会議も例年通り実施している。また花見、紅葉の見学、入居者が以前利用していたお店、買い物兼ねたドライブに出掛け外食も楽しんでいる。そして何より職員、入居者の表情が明るく元気に笑顔で過ごしている様子が伝わってくる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム のどか)「ユニット名 B 棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常生活や、今までの暮らしが持続できるような理念を掲げている。「自分だったら」という事を常に想定し、穏やかで混乱のない暮らしがサポートできる様に実践している。	理念「人生の先輩の知恵・笑みのある暮らし・家族との絆・地域との交流」は事務所内に貼り職員が目を通し共有している。ケアの場でも入居者を自分に置き換え、笑顔で接し安心感につながる支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地的に工場地帯に囲まれていて、近所付き合いや日常的な交流はできていない環境にある。町内在住の職員が少ないということもあり、交流が出来ていない。交流を図れる場所づくりを検討している最中である。	同法人特養と合同で秋刀魚祭りを実施し、地域の業者、ボランティアの協力のもと、地域の方々、家族、入居者を含め多数参加した。地区の盆踊り、元旦の獅子舞、中学生の体験学習の受け入れ等意欲的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア研修、中学生の職場体験の受け入れを行い、施設での役割や認知症の方々への接し方・支援方法などを助言している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では活動の報告や意見交換会を行っている。ケア会議や職員会議の場で再確認を行っている。	年6回開催し、町の健康福祉課、地域包括支援センターの職員が毎回参加している。参加者より、震災後少なくなった職員補充の状況、転倒予防のための「ふまねっと」の導入活用等が話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	情報交換や入居者間の相談、施設のみで対応が難しい時の相談などを常に行い、連携を図っている。	担当課に事故報告の家族対応について相談し助言を頂いた。町主催の地域住民を対象とした「認知症家族介護」の講師として管理者が出席している。調査当日は町の健康福祉課の職員に同行を頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人ひとりの習慣や特徴を知り、可能な限り付き合うことを原則に玄関の施錠は夜間のみとしている。職員間で入居者の対応方法などを常に相談・検討し行なっている。	毎月リスク委員会でヒヤリハットの事例を挙げ職員全員で振り返り、身体拘束されることの弊害について共有し理解をしている。無断外出の方があり、同法人特養の職員より連絡があった。その後、町のSOSネットワークに登録し対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者には小さなことでも報告を行い、職員は他職員のシグナルを察し、お互いが助け合うことで負担を抱えないように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修や勉強会へ参加し勉強できる機会がある。また、後見人に話を聞く機会もあるがまだまだ職員の理解度は低い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実態調査時の不安や疑問は契約時に説明を行い、理解ができるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本部事務局にはお客様相談室を設けている。また、面会に来られた時には、ご家族様の要望や意見を聞き、要望に添えるように努めている。	行事や面会時、居室で家族に話しを聞いている。職員のシフトの変更や食べ物、衣類の買い替え等家族の要望にそれぞれ対応している。2ヶ月毎に行事の写真、新人職員紹介等「のどか瓦版」を発行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は必要に応じ、個別に話を聞き助言できる機会を設けている。また、理事長の個別面談もあり順次行っている。	第1金曜日の職員会議等で意見を聞いている。震災後多くなった新人職員への助言等話し合われている。またウッドデッキの改築、IHの交換等職員の意見が反映された。理事長が月2～3回来訪し意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は、資格に応じた手当を支給している。実務経験や実績を踏まえて資格取得への働きかけや研修への参加を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では学ぶ機会が多くあり、できる限り職員が参加できるようにしている。また、業務の中では個々の能力に応じ特異分野での業務に役割と責任が持てるように分担をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会がなく出来ていない。交流を持てるように、見学などを行ったり、連絡協議会へ参加を行いサービスの質を向上していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わることで、ご本人のストレスが最小限に抑えられるよう訴えなどを聞き、要望に添っていくこと。そして、ご家族の協力を得ながら信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは密に連絡を取り合い、施設に気軽に足を運んで頂けることで信頼関係を築く。暮らしや施設の理念を伝えることで安心して頂ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定のケアプランを立て、精神状態の把握を行い、施設に馴染み安心した暮らしが早期に実現できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立を促し、できる部分が沢山あることを自覚していただく。家族の一員として頼りにしていますという気持ちを常に表現している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は協力的で関係は良好である。通院や外出等、また施設内での行事にも参加していただくことで絆を断たないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	震災の影響で馴染みの場がなくなってしまった交流の機会が少なくなっているのが現状となっているが、商店街や美容室など地域へ足を運び、交流を図っている。	震災後出来たコンテナ商店街、「きぼうのかね商店街」に出掛け知り合いの方と談話する方、家族や遠方の孫に年賀状を出す方、行きつけの美容院に出掛ける方等関係が途切れないように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時の状況、その場の雰囲気を感じて職員は仲立ちとなり、トラブルにならないように配慮を行っている。性格的なものや日々の関係を考慮し、居場所なども工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援や相談に応じていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中や会話から、本人の要望や希望を把握している。	居室で不穏になっている時家族の心配事を聞いたり、震災地をドライブしたり安心を与える支援をしている。仲良し同士一緒に買い物に出掛け、居室でお茶を飲んだりお喋りをしたり楽しんでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族との歓談の中から、今までの暮らしや生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録への記載、申し送りノートの活用、健康チェックなどを行い状況把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしや、身体・精神状態の把握は毎日行っており、ケア会議・担当者会議・職員会議を行い、ケアプランの見直し、更新を行っている。	担当者が家族、本人からアセスメントし職員全体でカンファレンスし介護計画を作成している。3ヶ月毎に評価し、6ヶ月毎に見直している。家族から何か役割を持たせて欲しいとの要望で食事のお手伝い等反映させた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録への記載を行い、職員間で情報の共有をし、介護計画へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの支援は多様で、日によっても変化する。その場での解決や安心して生活していただけるような支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	震災を受け、地域資源が減少していたが、少しずつ復興しているものもある。改めて地域資源の把握と協働の体制作りを図ってきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内の病院を協力機関として、緊急時や定期受診でお世話になっている。また、ご本人の身体状況などをご家族と相談していきながら適切な医療を受けられるように努めている。	入居者の大半は協力病院の女川町地域医療センターを受診している。状況説明は口頭で伝え、結果は生活記録に残し職員で共有をしている。同法人特養の看護師が、バイタル測定や健康相談に応じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バックアップ施設の看護師が、月に1度の健康相談を行っている。施設内でできる範囲の助言をもらったり、判断が難しいときには協力をいただき健康維持に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設での自立状態を把握して頂き、退院に向けては、自立に向けての生活リハビリや機能訓練をしていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設には看護師の配置はなく、終末期について、ご家族はバックアップ施設への入所を希望している。今後の課題として、ご家族の要望をしっかりと聞き、施設での取り組みを検討していきたい。	入居時、重度化や終末期を迎えた場合は状況の変化に応じ繰り返し話し合い、事業所が出来る対応を家族に説明をし、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に応急手当や救命処置についての勉強会があり、ある程度の知識は身につけている。また、定期診察の際に医師より助言をいただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	震災の体験を基に、災害に対しての避難や備えについて検討を重ね、再度マニュアルの見直しを図っている。避難訓練も定期的の実施している。	消防署、設備業者、地域住民の協力を得て夜間想定を含め合同訓練を1回行い、独自で1回行っている。消防署より訓練は出来るだけ多く等アドバイスを受けた。震災後食料を多く補充をした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷つけないように、また周囲の誤解を招かないよう配慮し、丁寧な言葉遣いと穏やかな声掛けを心がけている。	人生の先輩として、声のトーンに気を付けその人に合った言葉掛けをし、笑顔で過ごして頂くように支援をしている。外出の時、自分で身だしなみを整えたり衣服を選んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時の状況、その場の雰囲気を見て職員は仲立ちとなり、トラブルにならないように配慮を行っている。性格的なものや日々の関係を考慮し、居場所なども工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にせず、まずは入居者様と一緒に過ごすという支援を最優先にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の髪型や服装の好みを尊重している。また、こまめに整容(散髪・髭剃り・爪切り等)の声掛けや支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の希望を取り入れたり、楽しみとなる食事作りを心がけている。また、調理や配膳など、その方のできることをして頂いている。	献立は同法人特養の栄養士が作成し、食材は地元の復興コンテナ商店街で仕入れたりホームの畑で作った野菜などを取り入れ調理をしている。正月、誕生会、敬老会の行事食は職員と一緒に作り楽しく食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は常に気を配っている。個人の状態を把握し確保に努めている。食事形態や嚥下状態も個々に把握し、完食できる量や形態での提供を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方は本人と相談し、ケア用品の補充などを行っている。毎食後の口腔ケアは自立の方についてはご本人へ任せている。起床、就寝時には口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排日の記録と申し送りにより排泄リズムを把握し、トイレ案内やシグナルを察知し、可能な限りトイレでの排泄ができるように支援を行っている。	9名の方は昼夜自立でトイレ排泄をしている。その他の方は定期的な声掛けや、椅子から立ち上がったリソワソワしたり落ち着きがなくなる等サインを把握し一人ひとりの状態に合わせ支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日軽運動(自由参加)を行い、できる限り参加していただけるように働きかけたり、バランスの良い食事作りを心がけ予防と対策に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	要望のある方に対しては、できる限りその時間に提供できるようにしているが、職員の配置人数がギリギリの状況であるため要望どおりといかない時もある。曜日やなどで固定化し認知症の方でも把握のしやすい環境づくりをし、清潔保持に努めている。	熱め、温めの風呂等本人の希望に合わせて週2～3回の入浴支援をしている。仲間同士で入浴する方や職員とお話ししながら寛いで入浴を楽しんでいる方々もいる。現時点で入浴拒否者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの方の生活リズムを把握した上で、状況に合わせて昼寝や就寝時間の配慮を行っている。安眠や熟睡ができるよう日中の活動や生活リズムの見直しもしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出来れば薬(特に精神薬)は減らしたいというのが施設での考え方であり、その都度かかりつけの医師と相談を行いながら服薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを見つけて、やっていただくよう働きかけている。また、楽しみごとは出来る限り実現するよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添って、積極的に行っている。また、こちらからも様々な場所を提案し外出して頂けるように働きかけている。	天気のよい日はホームの周辺を散歩し近所の笹かま屋に立ち寄りお茶を飲んだり楽しんでいる。ドライブで日和山の花見、定義山の紅葉、バスで家族も一諸に上品の郷に出掛け帰りに買い物や外食を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事務所にて保管をしているが、お金の管理ができる方へは、買い物時などに現金の所持をしていただいたり、会計時にご自分でお支払いを行っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望に添い、電話や手紙等のやり取りは自由にいただいている。御家族様からの協力も頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の場所と認識ができるように席は固定化としている。ソファーなどやこたつなどを設置したり、植物などを置き、居心地のよい空間作りを行っている。	事業所内は何処も清潔で掃除が行き届き気持ちが良い、リビングも広く自然の陽光に満ち、神棚、正月飾りや獅子頭が飾られていた。入居者は温、湿度が適切に管理されている。リビングのソファーで安らぎテレビを見たり寛いでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやテーブル、テレビなどの配置を工夫している。それぞれの方が居心地のよい場所として過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでいただき、その方の好みや個性を尊重した居室になるよう、ご家族様にも協力を求めているが、理解をして頂くのは難しいこともある。	居室は広く、収納部も整理され家具、冷蔵庫、テレビを持ち込み、家族の写真や仏壇が置かれている。趣味の縫い物をする方もおり、居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に応じた備えができるように、担当職員は工夫をしている。できる事やわかる事を前提にドアの開放や照明などの使い方も工夫をしている。		